



当日のマダイ五目仕掛け



▲ドラグは緩めに調整しておこう

Tackle Guide

朝イチはワラサを狙うが、竿は青物用ではなく、全長3メートル前後のマダイ竿を使用する。ハリスを8号以上太くしてガンガン巻き上げるスタイルではなく、5~6号ハリスに合わせたドラグ調整によってワラサを上上げるスタイルのためだ。ビシはオモリ80号のLサイズ以下が指定されているが、好みでFLサイズを使ってもよい。ビシの調整はワラサもマダイも同様で、ポロポロとコマセがこぼれるくらいがちょうどよく、よほど食いがいいとき以外はドバまきは必要ない。

ここは我慢の一手と決め込み、仕掛けの入れ直しを繰り返す。**貴重な1枚をゲット**。ワラサのアタリがきたのは、開始から2時間くらいたったころだった。置き竿の穂先がモゾモゾと動いて、次の瞬間にギューッと竿が絞り込まれた。ロッドキープパーから竿を外し、リールを巻いて竿を立てる。魚はすぐに疾走を始めた。



▲三浦半島のタイ五目は今ワラサが好調

周年マダイが狙える相模湾、とくに秋〜冬にかけては落ちのマダイが活発な食いを見せる日も多く、また青物を始め様ざまな外道が交じるのが特徴だ。**エサ取り対策がカギ**。11月に入り三浦浜沖でワラサが食い始め、三浦半島葉山芝崎の福栄丸はワラサとマダイのリレーで出船を開始した。出船時間は6時半だが、前日に矢島船長に確認の電話を入れた際、「集まり次第出船しますよ」とのことだったので、小1時間ほど余裕をもって港に着いたが、ほとんどの人がすでに支度を始めていた。みなさん出足が早く、6時には舳が解かれる。「朝はワラサから狙います」。

ハリスは5号以上、長さは6~8メートル」とのアナウンズがあった。コマセには冷凍オキアミブロックが配られる。これをバケツに汲んだ海水に漬けて凍し、つり場へと向かう。付けエサはコマセから身のしつかりしたものを選んで使う。選んだオキアミは小さな容器に移して、オキアミ硬化剤で身を締め、おくとハリから外れにくくなる。ポイントに着くとすでに3隻ほどの船が竿を入れていて、中には竿が大きく曲がり隣でタモを構えている姿も見られた。ワラサの群れは口を使っているようで期待は膨らむ。投入の合図からほどなくミヨシ側で竿が曲がった。軟調のマダイ竿が満月に曲がり、竿先が海の中まで突っ込む。

ワラサの強引を堪能！  
マダイ五目が楽しい季節

三浦半島葉山芝崎発 三浦浜 葉山沖

この強烈な引きはワラサならではだ。

続いてもう一人、竿が曲がる。ダブルヒットだ。一人はバラしてしまったが、船に上がった1本は4キロに迫る立派な魚体のワラサだった。

ワラサの魚探反応は出たり消えたりするようだ。入れ食いというほどではなく、群れが船下に入ってくると竿が曲る。回遊しているワラサが自船の射程範囲に入るのを待つ釣りだ。皆がまめに仕掛けを入れ替え、コマセを切らさないようにすることが好釣果につながる。

や遅れて私も竿を出した。指示ダナは底からハリス分プラス2~3メートル。私の仕掛けはハリス6メートルなので、底から9メートルの位置にビシがくるようにタナを取った。3分ほど待つて仕掛けを上



▲ハリスが細めだから無理なヤリトリはしないように



▲まめな手返し釣果の決め手

この日はバラシもあったが8人で船中7本のワラサが上がった。9時半を回り、船長はマダイ狙いへの切り替えを告げる。マダイのポイントが亀城根周り、葉山沖で、浅い場所では水深30メートル、深い場所では55メートルほどだった。

福栄丸では、ワラサが回遊中はこの日のようにリレー形式でワラサとマダイを狙っていく。水温が下がると落ちのマダイを中心にしたマダイ五目狙いになるが、居着きのワ

ワラサはじっくりと船を流すのに対し、マダイの場合はまめにポイント移動を繰り返す。様子も場所を探った。トモの人が1キロ近いマダイを上げた後、私の竿にも竿先を鋭く引き込むアタリがきた。グイグイと引張るワラサの引きとは対称的に、マダイはシャープな突っ込みが断続的にやってくる。姿を見せたのは500グラムながらキレイなマダイ。ワラサとマダイがクレーンに収まる満足の釣果で沖揚がりの時間を迎えた。



▲マダイは今後、良型に期待したい

上げてみると、ハリがなくなっていた。これはサバフグの作業だ。その後も仕掛けを上げるたびにエサが取られている状況が続く。周囲ではワラサはポツポツと上がっている。エサ取りをかわし、ワラサが回ってきたときにハりにエサが付いている人が本命を手にするという

感じた。なんとかエサ取りを避けようと、コマセワークをあれこれ変えてみる。底から4、6、8メートルでコマセを振っていたのを6メートル一度だけにした。コマセを振らずにタナに合わせたり、海面からタナ取りをしたりと工夫するが、エサは取られるばかり。

**知得! Tips and Tricks**

底からのタナ取りの場合でも上から取るのはアリ

福栄丸では海底からのタナ取りになる。「海底からハリス分+2メートル」という具合だ。タナを取った後にその水深を覚えておいて、海面からのタナ取りをしてもいい。例えば底からハリス分+2メートル上げて40メートルのタナであれば、次の投入では底まで落とさず、45メートルで止めてから5メートルの間でコマセを振ってタナに合わせるようにする。筆者は同じ場所を流しているときは、1回おきくらいに海面からタナ取りをするようにしている。エサ取りが多いときや潮が速いときなど、海面からのタナ取りが効果的なことがしばしばある。

●船宿information

三浦半島葉山芝崎

**福栄丸**

☎090・1997・5698  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=マダイ五目乗合一人1万500円 (エサ、コマセ、氷付き)

▶備考=予約乗合、6時半出船。HPより各種割引券をダウンロード可。第1、3、5木曜日休

矢島 雄三船長